



環境活動

紙媒体とデジタル媒体の融合を推進し、事業活動における環境負荷低減と限りある資源の有効活用に努めています。また、生物多様性および生態系の保護を含めた環境保護のため、原材料、省エネルギー、大気への排出、排水および廃棄物などについて、TMS（竹田マネジメントシステム）の活動として管理し、環境汚染の予防に努めています。

竹田 i P グループ環境方針



竹田 i P グループは、持続可能な社会に貢献すべく、企業理念「溢れるほどの情熱 (passion) をもって、革新 (innovation) しつづける」を実現するために、すべての社員がとるべき行動を示した「竹田 i P グループ行動規範」を定めています。この「竹田 i P グループ行動規範」において「環境保護」の考えを明記しています。

そして、私たちの使命である「お客様の課題解決を通じて広く社会に貢献する」ために、「竹田 i P グループ環境方針」を定め、持続可能な社会を実現するために、事業活動と環境保護の両立を目指しています。

竹田 i P グループ環境方針(項目のみ抜粋)

1. 適用法令の遵守	6. 生物多様性の保全
2. 気候変動の緩和	7. 環境負荷低減の提案
3. 環境汚染の予防	8. 推進体制
4. 資源の有効活用	9. 情報開示
5. 水資源の保全	

詳しくは当社ホームページをご覧ください。

https://www.takedaip-hd.co.jp/sustainability/environmental_policy/

》 マネジメントシステムの状況

ISO14001（環境マネジメントシステム）認証取得

12.4 12.5

	竹田印刷(株) 竹田 i P ホールディングス(株)	日栄印刷紙工(株)	竹田東京プロセスサービス(株)	(株) プロセス・ラボ・ミクロン
認証取得日	2000年12月25日	2015年11月2日	2004年7月16日	2005年6月28日
認証登録番号	07965-B		12915-B	09147

監査の状況

6.3 7.3 8.4 9.4 11.6 12.4 13.3 14.1 15.2

実施項目	内部監査	内部監査員に対する 研修会	内部監査 (2024年度) 「不適合」	内部監査 (2024年度) 「観察事項」 「改善の機会」	外部審査 「特定された 改善の機会」
竹田印刷(株) 竹田 i P ホールディングス(株)	年2回	年2回	0件	31件	9件
日栄印刷紙工(株)	年2回	年2回	0件	10件	0件
竹田東京プロセスサービス(株)	年1回	都度外部研修を実施	0件	4件	5件
(株) プロセス・ラボ・ミクロン	年1回	年1回	1件	18件	1件

全社員教育の状況

4.4 13.3

TMS（竹田マネジメントシステム）の効果的な運営を図るために、全社員に対して次のような教育を行っています。

2024年度の主な教育実施内容		
テキストでの教育の後、理解度テストを行うことで教育効果を確認し、「教育実施記録」を保持しています。	☒ FSC®（CoC）認証の内容の再確認	☒ 仕事と介護の両立
	☒ ITセキュリティ	☒ 36協定と労働時間管理に関して
	☒ TMS文書の理解	☒ ISO外部審査での指摘事項
	☒ 健康経営	☒ 内部監査の目的
	☒ 各種ハラスメント	☒ 知的財産・著作権

》環境保護の状況

法規制の順守

3.4 6.3 7.3 11.6 12.5 14.1 15.2

竹田 i Pホールディングスおよび竹田印刷では、環境に関する法規制を順守し環境汚染をできる限り少なくすることは企業の重要な責務であるという認識のもと、法的要求事項への対応実施・維持の状況を順守状況一覧表によりチェックし、順守の徹底を図っています。また、環境関連法令に従い、必要に応じて管理者を設置し、管理報告を行っています。

竹田 i Pホールディングス・竹田印刷
事業活動における2024年度の環境への排出

再生資源	再生紙分類	2,124t
	固形燃料化分類	27t
	金属類	3t
	使用済み刷版	24t
	木くず	31t
埋立処理	廃プラスチック類	13t
中和処理	廃酸	1t
	廃アルカリ	1t
焼却処理	廃油	4t

※竹田 i Pホールディングス（株）・竹田印刷（株）のデータ

プロセス・ラボ・ミクロン 有価物排出量（2024/4～2025/3）

ステンレスやニッケルの廃材を有価物として再利用しており、廃棄物量の削減を推進しています。

	関 東	九 州	中 部	合計 (kg)	
ステンレス廃材※1	5,731	450	6,300	12,481	※1 レーザ加工メタルマスク製造時の端材、ADTメタルマスク製造時のニッケルめっき母材、回収メタルマスクの廃棄品 ※2 ADTメタルマスク製造時の端材、テスト品（条件出し用） ※3 ホルダ製造時の端材、メタルマスク用枠の廃棄品 ※4 エッチング加工メタルマスク製造用、メタルマスク検査用などのLPPフィルム ※5 ニッケルめっき用治具の使用済み廃材 ※6 エッチング加工用のエッチング液の廃液
ニッケル廃材※2	530	430	1,720	2,680	
アルミ廃材※3	1,262	80	3,080	4,422	
廃フィルム※4	1,752	470	-	2,222	
ニッケル廃材+銅※5	400	210	1,030	1,640	
塩化第二鉄廃液※6	118,540	23,770	-	142,310	

取水によって著しい影響を受ける水源

6.1

竹田印刷は、事業を行う上で必要な水をすべて「水道」から取水し使用しています。地下水の揚水はなく、当社の事業活動における取水によって著しい影響を受ける水源はありません。

地域の環境保護条例と政策への対応

3.9 7.3 11.6 12.4 13.1

竹田印刷は、各地方自治体の条例に基づき、地球温暖化対策に関する計画書などを作成し、各地方自治体に提出しています。

気候変動リスクへの対応

13.2

竹田 i Pグループは、「気候変動リスク」を優先的に取り組むべき課題として認識しています。

中長期的には「気候変動リスク」により、カーボンプライシングの導入による操業コストの増加や、温室効果ガス（GHG）排出規制の強化による対応コストの増加などの移行リスクが生じる可能性があり、異常気象の激甚化による操業停止や気候変動による材料調達コストの増加などの物理的リスクが生じる可能性もあり得ると考えています。

このような課題に対応するため、竹田 i Pホールディングスは温室効果ガス（GHG）排出量の削減に向け、2023年6月開催の取締役会にて、竹田 i Pグループ温室効果ガス（GHG）排出量削減の中長期目標として、“2030年度までに2020年度比30％以上の削減・2050年度までに排出量実質ゼロ”を目指すこととし、国内主要グループ会社各社の温室効果ガス（GHG）排出量削減目標を決議しました。

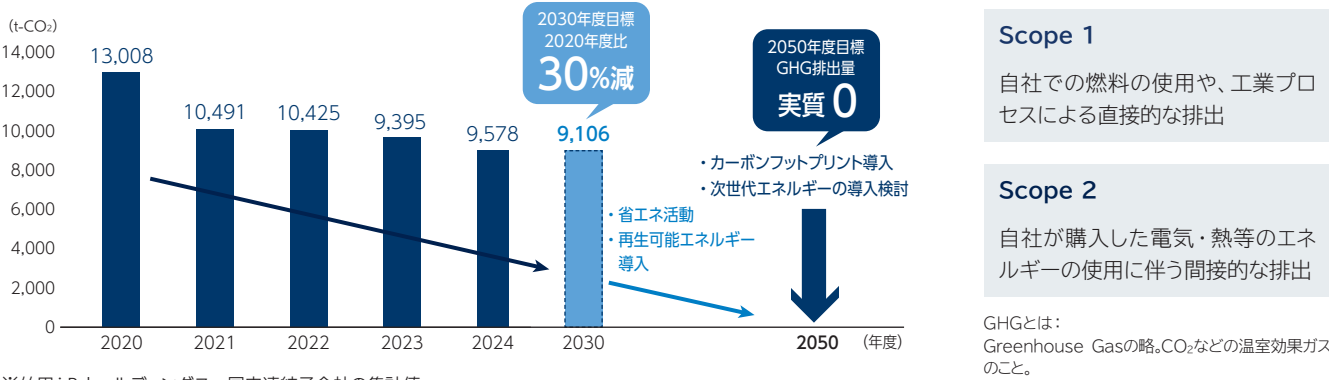
温室効果ガス（GHG）排出量の実績を、四半期毎にサステナビリティ推進室が当社の取締役会に報告するとともに、リスク管理委員会を通じてグループ各社と情報共有し、排出量の可視化を行い、排出量削減の目標達成を目指して取り組んでいます。

なお、当社国内連結グループ合計の温室効果ガス（GHG）排出量（Scope1+2）は、下図のとおりとなっています。目標達成のための主な排出削減の取り組みとしては、オンサイトPPAモデルによる太陽光発電設備の導入を進めています。東海プリントメディア（株）では、2023年9月26日より太陽光発電設備が稼動・運用されており、同様に（株）プロセス・ラボ・ミクロンにおいても、川越テクノロジーセンターにて2024年6月1日より太陽光発電設備が稼動・運用されています。これらの取り組みにより、CO₂の排出削減を行っています。

また、竹田東京プロセスサービス（株）の湘南藤沢センターでは、照明器具を全面的にLED化し、北陸センターにおいても生産エリアのLED化を実施。省エネ化を進めることによるCO₂の排出削減のための取り組みを行っています。

これらの取り組みを日常的な省エネ活動と併せて実施することにより、消費電力の抑制を図り、CO₂の排出削減につなげています。

GHG排出量 [Scope1+2] ※



》環境保護活動の推進

工場排水処理策と測定状況

3.9 6.3 14.3

竹田印刷・竹田東京プロセスサービス（名古屋本社）は、排水量に関しては測定していませんが、水質について、PH（水素イオン濃度）、BOD（生物化学的酸素要求量）、SS（浮遊物質）、金属含有量、有害物質などの項目を年2回測定し、法規制値より厳しい自主管理値を設定し徹底管理。管理値以内であることを確認した上で、下水道に排水しています。

プロセス・ラボ・ミクロンでは、排水については年4回、自主分析で管理状況を監視するとともに、行政による定期水質検査を受けています。

化学物質管理

3.9 12.4 14.3

竹田印刷は、「化学物質リスクアセスメント規定」を定め、自主的な適正管理や安全性の高い代替物質への転換を促進するとともに、化学物質による労働災害の防止や廃棄物の拡散防止に努めています。またプロセス・ラボ・ミクロンでは、新規材料の採用時、SDS（安全データシート）の入手や規制法令等の確認などを行い、管理台帳に登録の上使用しています。

騒音・振動の予防策と測定状況

3.9

竹田印刷は、騒音・振動を防止するために、印刷工場は建築設計の段階から二重壁・二重窓構造にし、内壁には吸音材を使用した防音対策を施しています。騒音の測定記録については、全時間帯において規制基準値を下回りました。日栄印刷紙工でも、年1回の測定を行っています。

プロセス・ラボ・ミクロンでは、規制対象であるエアコンプレッサーがありますが、静音タイプを選定、設置方法や設置場所の改善により規制基準をクリアしました。

排出ガスの予防策と測定状況

3.9 11.6

竹田印刷は、大気汚染防止法のばい煙発生施設に該当しているオフセット輪転機の乾燥装置について、年2回の排出ガス測定を実施しており、法規制値より厳しい自主管理値を設定し徹底管理を行っています。また東京都環境局が推進する「Clear Sky サポーター」に登録し、大気環境の改善に向けた取り組みを進めています。

プロセス・ラボ・ミクロンでは、アスベスト対策を実施し、川越テクノロジーセンター（旧 本社・川越工場）の建て替え工事も問題なく終了しました。また社用車の排ガス対応として「排ガス抑制の実施手順書」を制定しています。



廃棄物の管理・運営

3.9 6.3 11.6 12.4 14.1

竹田印刷・日栄印刷紙工は、「環境側面特定管理規定」を定め、それぞれ種類別に保管し、管理方法を定めています。特に特別管理産業廃棄物は、水質汚濁や土壌汚染を招かないように厳しく管理しています。また年に1回以上、産業廃棄物処理業者への立入り調査を行い、処理が適正に行われているかを目視により確認しています。

プロセス・ラボ・ミクロンでは、特別管理産業廃棄物の管理・行政届出、PRTR法に基づく対象物質の行政届出を実施しております。

緊急時への準備対応

3.9 11.6 12.4 14.1

竹田印刷では、事故・緊急事態の可能性として「火事・爆発・漏えい（大気・水系・土壌）など」を想定し、発生した場合の環境への重大な影響（大気汚染・水質汚濁・土壌汚染など）を防ぎ、迅速に対応・処置するために「不適合及び緊急事態対応管理規定」を定めています。その中で、予防・初期処置および対処に必要な設備・防災備品の設置のほか、連絡網の明示・模擬訓練の実施・発生時の基本行動などについて定めています。

FSC® CoC認証～Forest Stewardship Council®（森林管理協議会）～

15.2

竹田印刷は、FSC® CoC認証を取得しています。

ライセンスコード：FSC-C011109 認証取得日：2004年8月12日

すべてがFSC® 認証品ではありません。FSC製品についてはお問合せ下さい。

FSC® は、森とそこに暮らす人や生物を大切にすることをお手伝いをします。



竹紙の提案

6.3 15.1 15.2 15.3

里山を荒らすことから、いまや“竹害”とまで言われる竹。その竹を持続的に大量に使うことで社会的課題の解決を図ります。針葉樹パルプと広葉樹パルプの中間的性質をもつ竹パルプは、印刷用紙から産業用紙まで幅広く活用できます。本サステナビリティレポートも、全ページ竹紙を使用しております。このようなできるだけ環境に負荷をかけない紙をお客様におすすめし、お客様自身の環境負荷低減に寄与してまいります。



Report

竹田 i Pグループの省エネ対策

■ 東海プリントメディア（株）

竹田 i Pホールディングスが、再生可能エネルギー発電事業を手掛ける三菱HCキャピタルエナジー株式会社様とオンサイトPPAモデル※により契約を結ぶかたちで、東海プリントメディアが操業する読売新聞清須工場の屋根に出力約199.8kW（パネル360枚）の太陽光発電設備を設置しました。太陽光で発電したグリーン電力を、新聞印刷などの工場の運営に活用し、電力使用量に応じた料金を、工場側が三菱HCキャピタルエナジー株式会社様に支払う仕組みです。これにより、清須工場の2024年度の消費電力の約9.8%が太陽光発電で賄われ、電力由来のCO₂排出量の年間約115tを削減しました。

※オンサイトPPAモデル：太陽光発電を行う事業者が、需要家の敷地内に太陽光発電設備を設置し、そこで発電された電力を需要家に供給する仕組み



■ 竹田東京プロセスサービス（株）

省エネ対策の一環として、湘南藤沢センター社屋の蛍光灯266本をLED照明に取り換えました。また、北陸センターの生産エリアでも蛍光灯440本をLED照明に交換しました。これに加えて、全事業拠点におけるLED化の取り組みを進めることで、さらなるエネルギー消費量の削減を目指しています。これらの取り組みにより、環境負荷の低減と持続可能な運営体制の確立を図っています。

■ （株）プロセス・ラボ・ミクロン

2024年4月、川越テクノロジーセンター（旧 本社・川越工場）にて新社屋・新工場が竣工され、省エネ対策として以下を実施・導入いたしました。

- ・二重屋根（断熱材充填） ・複層ガラス（遮熱Low-E） ・LED照明 ・節水型トイレ ・キュービクルトップランナー変圧器
- ・熱交換型換気扇 ・シックハウス24時間天井換気扇 DCブラシレスモーター仕様

また、株式会社TGパワー様とオンサイトPPAモデルにより契約を結び、2024年6月に川越テクノロジーセンターの屋根に出力約198kW（パネル455枚）の太陽光発電設備を設置しました。これにより、川越テクノロジーセンターの2024年度の消費電力の約11.9%が太陽光発電で賄われ、電力由来のCO₂排出量の年間約73tを削減しました。

さらに、3か所の生産拠点を2か所に統廃合し、設備・人員機能の集約を図りました。この拠点再編により、生産設備の稼働率向上とエネルギー消費の最適化が進み、空調・照明などで重複していた分のエネルギー使用量削減が期待されます。そして、オペレーション全体が効率化することに伴って、環境負荷の低減にも寄与する取り組みとなっています。

こうした活動を通じて、持続可能な生産体制の確立と環境に配慮した事業運営の両立を目指しています。

